



KENSEI OKADA

岡田 健成

東京大学大学院情報理工学系研究科
竹内・二工研究室 日本学術振興会
特別研究員 / 日本細胞農業協会 理事

SBIRでの 取り組み

畜産未利用資源の活用による 低コスト細胞大量培養手法の開発

近年、人口増加や社会変化による将来的な肉不足が懸念されています。そこで代替タンパク質として細胞から作る食肉の「培養肉・細胞性食品」が注目されています。そのコストの6-9割を占めるものが培養液です。そこで、SBIR では未利用資源を活用し、培養肉向けの低コスト培養液を開発しています。さらに、研究開発に加え細胞性食品の事業化についても担当し、その社会実装を促進しています。

略歴

1999年：熊本生まれ
2017年：ラ・サール高校卒業
2018年：東京大学入学(文科1類)
2019年：特定非営利活動法人 日本細胞農業協会 参画 (細胞性食品の業界団体)
2022年：東京大学教養学部統合自然科学科統合生命コース卒業(理転のち卒業)
2022年：東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻入学/
東大IPC(東京大学のスタートアップ投資事業会社)参画
2024年：同大学修士課程修了、博士課程進学
2026年：日本学術振興会特別研究員 採択

目指すCxO像

技術内容を深く把握した上で、投資の観点・規制状況をバランスした社会実装をCEOとして推進たく思っております。大学での研究開発だけではなく、業界団体の理事並びにスタートアップ投資事業会社の経験を活かします。また、技術だけに注目するのではなく、顧客課題から始まる「クライアント・ファースト」の事業開発を大切にしたいと考えており、細胞性食品に限らず別市場でも事業機会がないかを常に探索し続けアップサイドを上げていこうと思います。

技術シーズ・ビジネスモデル

